

【附属函館中学校】ICT教育モデル

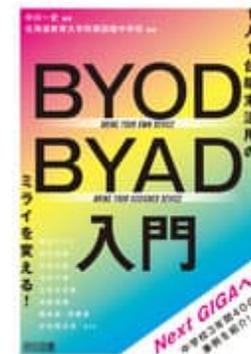
- ・附属函館中学校では、全国に先駆けて、平成25年度から学校所有で1人1台端末の取組を開始し、平成29年度からBYADの取組、令和4年度からは各教科等の授業の中でCBTを取り入れた指導を展開している。
- ・GoogleフォームやGoogleスライド等によって、全ての教科・単元でICTを活用した協働学習を推進し、さらに教職員間では職員会議の議題の共有、予定表の提示やチャットによる情報共有等、校務のICT化を促進している。
- ・これまで、文部科学省「次世代の教育情報化推進事業」(平成29・31年度)をはじめとし、国立教育政策研究所「教育課程研究指定校事業」等の指定校として実践を進めている。
- ・全国の各自治体や学校から学校現場におけるICTの効果的な利活用の問合せが多く寄せられており、令和4年度の自治体等への講師派遣やリモート研修会における受講者数は約3,300名、直接来校した研修者は約180名であり、北海道及び全国におけるICTを活用した教育を牽引する役割を担っている。



「数学科」でGoogleスライドを利用した発表の様子



「総合的な学習の時間」でGoogleワークスペースを活用して、グループ内で情報を共有しながらまとめを作成。



令和5年6月刊行
「1人1台端末活用のミライを変える！
BYOD／BYAD入門」
(中川 一史氏、附属函館中学校編著)